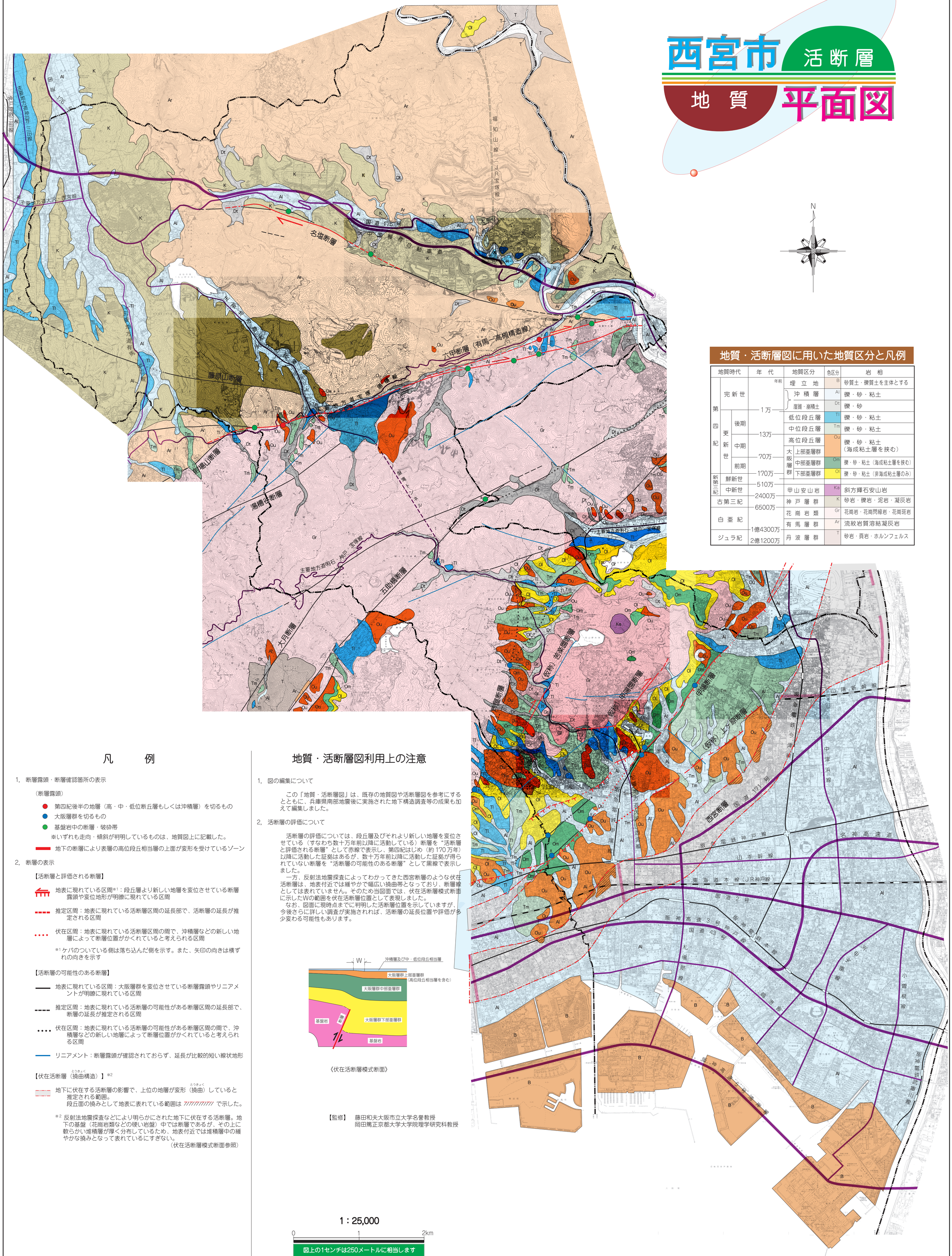
西宮市 活断層 地質 平面図



地質・活断層図に用いた地質区分と凡例

地質時代		年代	地質区分		色区分	岩相
第四紀	完新世	年前	埋立地		B	砂質土・礫質土を主体とする
			沖積層		Al	礫・砂・粘土
			崖錐・崩積土		Dt	礫・砂
	更新世 後期	1万	低位段丘層		Tl	礫・砂・粘土
			中位段丘層		Tm	礫・砂・粘土
	更新世 中期	13万	高位段丘層		Ou	礫・砂・粘土（海成粘土層を挟む）
	更新世 前期	70万	大阪層群	上部亜層群		
				中部亜層群	Om	礫・砂・粘土（海成粘土層を挟む）
		170万		下部亜層群	Ol	礫・砂・粘土（非海成粘土層のみ）
新第三紀	鮮新世	510万				
	中新世	2400万	甲山安山岩		Ka	斜方輝石安山岩
古第三紀		6500万	神戸層群		K	砂岩・礫岩・泥岩・凝灰岩
白亜紀		1億4300万	花崗岩類		Gr	花崗岩・花崗閃緑岩・花崗斑岩
			有馬層群		Ar	流紋岩質溶結凝灰岩
ジュラ紀		2億1200万	丹波層群		T	砂岩・頁岩・ホルンフェルス

凡　例

1, 断層露頭・断層確認箇所の表示

（断層露頭）

- 第四紀後半の地層（高・中・低位断丘層もしくは沖積層）を切るもの
- 大阪層群を切るもの
- 基盤岩中の断層・破砕帯

※いずれも走向・傾斜が判明しているものは、地質図上に記載した。

地下の断層により表層の高位段丘相当層の上面が変形を受けているゾーン

2, 断層の表示

【活断層と評価される断層】

地表に現れている区間※1：段丘層より新しい地層を変位させている断層露頭や変位地形が明瞭に現れている区間

推定区間：地表に現れている活断層区間の延長部で、活断層の延長が推定される区間

伏在区間：地表に現れている活断層区間の間で、沖積層などの新しい地層によって断層位置がかくれていると考えられる区間

※1 ケバのついている側は落ち込んだ側を示す。また、矢印の向きは横ずれの向きを示す

【活断層の可能性のある断層】

地表に現れている区間：大阪層群を変位させている断層露頭やリニアメントが明瞭に現れている区間

推定区間：地表に現れている活断層の可能性がある断層区間の延長部で、断層の延長が推定される区間

伏在区間：地表に現れている活断層の可能性がある断層区間の間で、沖積層などの新しい地層によって断層位置がかくれていると考えられる区間

リニアメント：断層露頭が確認されておらず、延長が比較的短い線状地形

【伏在活断層（撓曲構造）】※2

地下に伏在する活断層の影響で、上位の地層が変形（撓曲）していると推定される範囲。
段丘面の撓みとして地表に表れている範囲は ////////// で示した。

※2 反射法地震探査などにより明らかにされた地下に伏在する活断層。地下の基盤（花崗岩類などの硬い岩盤）中では断層であるが、その上に軟らかい堆積層が厚く分布しているため、地表付近では堆積層中の緩やかな撓みとなって表れているにすぎない。
（伏在活断層模式断面参照）

地質・活断層図利用上の注意

1, 図の編集について

この「地質・活断層図」は、既存の地質図や活断層図を参考にするとともに、兵庫県南部地震後に実施された地下構造調査等の成果も加えて編集しました。

2, 活断層の評価について

活断層の評価については、段丘層及びそれより新しい地層を変位させている（すなわち数十万年前以降に活動している）断層を“活断層と評価される断層”として赤線で表示し、第四紀はじめ（約170万年）以降に活動した証拠はあるが、数十万年前以降に活動した証拠が得られていない断層を“活断層の可能性のある断層”として黒線で表示しました。

一方、反射法地震探査によってわかってきた西宮断層のような伏在活断層は、地表付近では緩やかで幅広い撓曲帯となっており、断層線としては表れていません。そのため当図面では、伏在活断層模式断面に示したWの範囲を伏在活断層位置として表現しました。

なお、図面に現時点までに判明した活断層位置を示していますが、今後さらに詳しい調査が実施されれば、活断層の延長位置や評価が多少変わる可能性もあります。

《伏在活断層模式断面》

【監修】　藤田和夫大阪市立大学名誉教授
岡田篤正京都大学大学院理学研究科教授

1：25,000

0　1　2km

図上の1センチは250メートルに相当します

※本図は、平成11年度調整の西宮市地形図1：10,000を使用し作成しました。